

重要文化財 万徳寺多宝塔 及び鎮守堂 保存修理工事



多宝塔の桧皮葺を解体したところ



鎮守堂の桧皮葺を解体したところ

ひわだぶき

屋根の檜皮葺を葺き替えました

多宝塔と鎮守堂の屋根は、ヒノキの皮（檜皮）で葺かれた檜皮葺です。現在の屋根は平成2年（1990）の修理で葺かれたもので、約30年経過して劣化が進んだため、伝統的な技術と材料を用いて葺き替えました。



檜皮を葺き替えているところ



檜皮を葺き替えました
屋根に取り付いているのは足場です

にぬり

鎮守堂の丹塗を塗り替えています



現状の塗装を掻き落とししました

鎮守堂は、丹と呼ばれる顔料を、膠で溶いた伝統的な塗料が塗られています。現在の塗装は昭和35年（1960）の修理で塗られたもので、約60年経過して劣化が進んだため、伝統的な技術と材料を用いて塗り替えます。写真は、現在塗られている塗装を掻き落としているところです。

修理方針 屋根葺替（檜皮葺）
塗装・部分修理
工事期間 令和元年10月～
令和2年6月



文化財愛護



修理現場から

本工事は国・愛知県・稲沢市の補助を得て実施しています

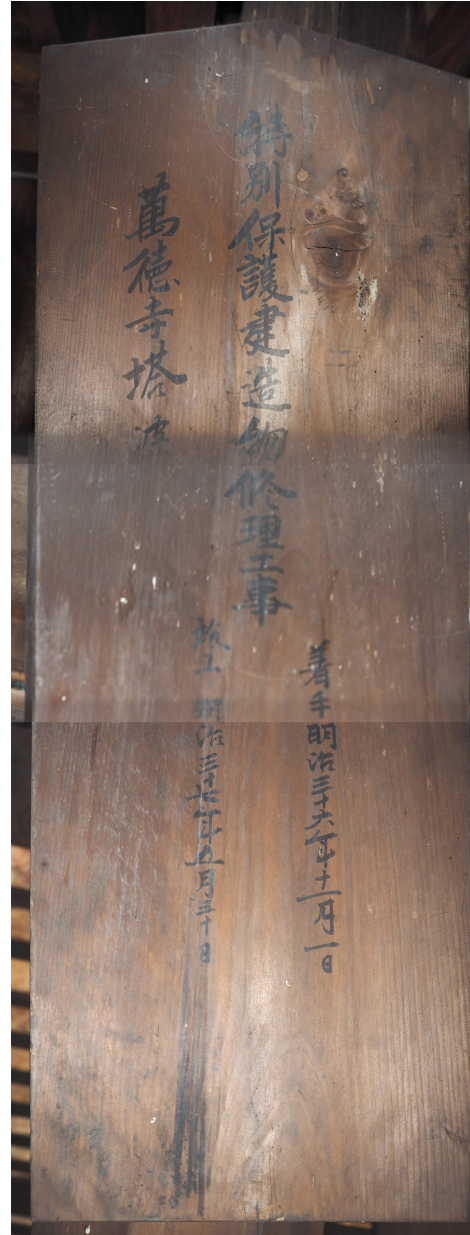
明治時代に行われた多宝塔の修理の棟札が見つかりました

明治36～37年（1903～1904）に行われた多宝塔の修理の記録を記した棟札が、屋根の中から見つかりました。棟札は高さ約63cm、幅約28cm、厚さ約3cmのヒノキの板で、修理の年代と工事関係者の名前が墨書で記載されています。修理の内容は記されていませんが、現状の建物を観察すると、柱など主要な部材に明治時代の新しい材料が確認出来ます。そのような部材は、建物が建った状態では取り替えることが出来ないので、明治の修理は、建物を全て分解して、傷んだ部材を取り替えて建て直す「解体修理」が行われたと推測できます。

工事請負人である鈴木幸右衛門は、明治12年の旧三重県庁舎（明治村に移築）や、明治44年の東本願寺勅使門で大工棟梁を務めました。修理の設計は、安藤時蔵と塩野庄四郎が担当しました。安藤時蔵は明治30年代に行われた滋賀県内にある多数の文化財修理、塩野庄四郎は大正3年の京都銀閣の修理を手掛けました。



▲棟札の裏面合成写真



▲棟札の表面合成写真

(裏面)	(表面)
修理補助費下附 明治三十六年六月二十一日	特別保護建造物修理工事 萬徳寺塔婆
工事主官 愛知縣知事 深野一三	着手 明治三十六年十一月一日 竣工 明治三十七年五月三十日
全内務部才一課長 愛知縣參事官 深野鍊太郎	主任 愛知縣屬 津金胤義
嘱託監督 滋賀縣技師 安藤時蔵	嘱託監督 塩野庄四郎 工事請負人 鈴木幸右衛門
萬徳寺住職 光松堯秀	

▲棟札の内容